

第1学年「こすってうつそう」(造形遊び)

1. 題材名「こすってうつそう」～でこぼこざりんたんけんたい～
(造形遊び A表現(1)ア、B鑑賞(1))
2. 題材の目標
 - 身の回りにあるこすり出しに適したものや場所に関心をもち、その感触や、こすり出して写す活動を楽しむ。(ア 造形への関心・意欲・態度)
 - こすり出す活動を通して、出てくる模様の形や色のおもしろさに気づき、いろいろな写し方を考える。(イ 発想や構想の能力)
 - 思いついたことを試し、体全体の感覚を働かせながら、自分の思いにあった写し方を見つける。(ウ 創造的な技能)
 - 自分や友だちの見つけた模様の面白さや美しさに気づき、その思いを大切にすること。(エ 鑑賞の能力)
3. 材設定の理由
 - …省略…12月に取り組んだ「えのぐと〇〇であそぼう」では、絵の具とローラーやビー玉、割り箸などの道具を使い、大きな紙(模造紙10枚)に思いきり絵の具遊びをした。大きな紙に思いきりかいたことや23人みんなで行ったことが、大きな喜びにつながったようで、活動後の感想カードには、お気に入りの道具や模様、友だちの活動など、思いついたことを紙いっぱい書く姿が見られた。
このように、短い時間でもお互いの活動や作品のよさや面白さをみつけ、それを伝え合う場をもつようにしたり、時には「1ねん3くみ〇〇美術館」としてじっくり作品を鑑賞する時間を設けたりすることによって、少しずつではあるが、自分や友だちの活動や作品に関心をもち、そのよさを伝えられるようになってきている。
 - 児童は、身近にあるものや自分たちが集めてきたものに体全体で働きかけてかかわることが好きである。こうした活動を通して、いろいろなものの形や色、手触り、重さなどを感じたり、味わったりしている。そして、体感したことや今までの経験をもとに、新たな試みをしたり、偶然にできたものから想像をふくらませ活動を広げたりする。身近な素材に体全体で楽しんでかかわっていく活動は、児童の感覚を揺さぶり、心をわくわくさせ、本来児童がもっている創造力をより活性化させるものと考えられる。
本題材は、児童に手触りの楽しさを十分味わわせながら、こすり出し遊びをする造形遊びである。身近にあるものや場所からこすり出したいものを見つけ、どんな模様が出てくるのかいろいろ試し、こすり出す楽しさや出てきた模様の面白さを味わう活動をする。この活動には、手触りを実感したり、出てくる模様を想像したりする楽しみがあり、児童は興味をもち、学校中の様々なでこぼこやざらざらを求めて生き生きと活動していくのではないかと考えられる。普段何気なく目にしているものからうまれる様々な模様を通して、ものに対する新たな見方や面白さも感じることができるであろう。また、絵や立体に表したり、つくりたいものや工作に表したりする活動とは異なり、こすり出していくうちにうまれる偶然の面白さや意外性を感じることができるので、表現活動に抵抗がありいつもはなかなか活動が進まない児童も、面白さを感じ、意欲的に取り組むことができると考える。出てきた模様の面白さを友だちと交流しながら感じとったり、自分なりの表し方を試す楽しさを味わったりと多様な造形活動が期待できることや、これからの版的表現の初期題材としておさえることができると考え、本題材を設定した。

- 指導にあたっては、前題材「ざいりょうとなかよし」でいろいろな材料とふれ合った経験を生かしたい。「でこぼこしたかんじ」「つるつるしたかんじ」「ふわふわしたかんじ」など様々なものの感触を味わい、実際にこすり出しに適したものを見つける際の手がかりにしたい。

導入では、手紙やクイズなどを取り入れ、児童の興味・関心がわくような工夫をする。そして、実際に教室の中にある身の回りのものをこすり出してみる経験しながら、どんなものがこすり出しに適しているのか、どうやったら上手にこすり出しができるのかをみんなで考えていく。困っている児童には、いろいろなものを触らせたり、友だちのやり方を紹介したりして一緒に活動していきたい。終わりには、次の活動のコマーシャルタイム「これ、どーこだ？」をし、次時への意欲づけをしたい。

本時は、前時までの経験を生かし、活動を学校全体に広げ、こすり出しに適したところを探し、どんどんこすり出しをしていく活動である。学校中を歩き回るといふ普通の授業ではあまり体験できない活動をするので、児童は宝探しでもするかのような気持ちで、わくわくして取り組むと思われる。遊びで終わらないよう、活動のねらい、約束、安全面などしっかり意識して出かけられるよう配慮したい。

そして、積極的に活動している児童には、温かく見守ったり、肯定的な声かけをしたりして、さらに意欲を高めていく。また、こすり出しがうまくいかない児童には、こすり出しのポイントをもう一度思い出させて一緒に活動をしたり、なかなか活動が進まない児童には、友だちの様子を紹介したり、教師が先にすてき見つけをしたりして、意欲づけをしていきたい。

本時の後半には、こすり出して出てきた模様をみんなで見合い、自分や友だちの活動の様子や、こすり出した模様を見て、面白いところやよいところを見つける鑑賞の時間を設定する。思いきり学校中を歩き回った後で、会議室に設定した「1年3組すてきな模様美術館」に入り、自分や友だちの作品を見る。いつもとは異なった雰囲気の中で、じっくりと作品を見ることで、より深く、自分の活動の振り返りや、友だちの活動を知ることができる。また、実際にいろいろなものをこすり出してみて、どんな面白さ、楽しさがあったのか、友だちの見つけた模様を見てどう思うかなど、お互いに聞き合うことで、さらにこすり出しへの興味や、模様への気づきが深まることを期待したい。

4. 評価計画

(1) 題材の評価規準と単位時間における具体的な評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	身の回りがあるこすり出しに適したものや場所に関心をもち、形や手触りを楽しんだり、こすり出す活動を楽しもうとする。	こすり出す活動を通して、材料の形や色などの特徴に気づき、感じたことなどから思いをふくらませ、新たなアイデアを思いついたり、表し方を考えたりする。	思いついたことを試し、体全体の感覚を働かせ、自分の思いにあった表し方を見つける。	自分や友だちの見つけた模様に関心をもち、形や表し方の面白さに気づき、楽しく見る。

単位時間における具体的な評価規準	①手触りを楽しみながら、興味をもっているいろいろなものをこすり出そうとする。	①こすり出した模様の面白さ、美しさ、不思議な感じに気づき、さらにしたいことやいろいろな表し方を思いつく。	①思いついたことをどんどん試し、自分の表し方を確かめたり、広げたりしながら、思いにあった写し方を見つける。	①自分や友だちの活動の様子や、こすり出した模様を見て、面白いところやよいところを感じる。
------------------	--	--	---	--

(2) 評価について

評価チェック表を使った教師による観察を基本とする。児童のつぶやき、行動を観察し、記録していく。また、カードを使った評価も取り入れていきたい。

5. 他教科との関連を図った単元計画

() 内は、時間数

月	図画工作	生活科、国語
5	「つないでどこへ」(4)	「がっこうたんけん」(8) 生活科
6	「あつめたはこから」(4)	「みんなにおしらせ」(5) 国語
11	「くるくるちょっきん、かさねてちょっきん」(4)	「あきとあそぼう」(8) 生活科 「学校でのことをおしえてあげよう」
12	「えのぐと〇〇であそぼう」(4)	(10) 国語
1	「ざいりょうとなかよし」(2) 「でこぼこざらりんたんけんたい」(4)	「ふゆとあそぼう」(10) 生活科
2	「いろいろペッタン」(2) 「かみはなが」(6)	「1年生をむかえるよういをしよう」 (10) 生活科

6. 学習計画 (全4時間 本時 3・4/4)

次	時	学習活動 (評価規準)	予想される児童の活動	教師の支援
1	2	○「さわってさわって、こすってこすって」 こすり出しのできそうなものを見つけ、クレヨンやパスでこすり出しをする。 「これ、なーんだ？」 (ア①、ウ①)	○1枚のこすり出しの模様を見て、どこでこすったか考え、教室のいろいろな所でこすり出しをする。 ・これはちがうなあ ・うまくこすれないな ・あっ、この模様かな ・もっといろいろなものをこすってみたいな ○どうやったらうまくこすり出しができるか考える。	・クイズ形式で提示し、こすり出しに興味をわくようにする。 ・どんなものがこすり出しに適しているか、どうやったら上手にこすれるかを考えながらこすり出しをしてみるよう伝える。 ・こすり出しがうまくいかない児童には、いろいろなものを触らせたり、友だちのやり方を紹介したりして一緒に活動する。

2	2 本時	<p>○「でこぼこざらりんたんけんたい」 こすり出しのできそうな場所を探してこすり出しをし、面白い模様を見つける。 「これ、どーこだ？」 (イ①、エ①)</p>	<p>○学校の中でこぼこしたところを探してこすり出しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わあ、廊下の床って面白い模様だな ・次は壁もやってみよう ・色を変えるときれいな ・見て見て、こんな模様が出てきたよ ・どこでやったの？ <p>○見つけてきた模様をみんなで見合い、その面白さ、美しさを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味がわくような提示をする。 ・必ず立ち寄るところを決め、児童の活動の様子を把握する。 ・うまくいかない児童には、こすり出しのポイントをもう1度思い出させ、一緒に活動する。 <p>・「1年3組すてきな模様美術館」とし、じっくりと見つけた模様を鑑賞する時間をとる。</p>
---	---------	--	--	---

7. 本時の学習（3・4／4時間）

(1) ねらい

- ・こすり出した模様の面白さ、美しさ、不思議な感じに気づき、さらにしたいことやいろいろな表し方を思いつく。
- ・自分や友だちの活動の様子や、こすり出した模様を見て、面白いところやよいところを感じる。

(2) 準備物

児童：クレパス、クーピー、生活科バッグ、鉛筆、

教師：模造紙、コンテ、連結クリップ、手紙、すてきカード、振り返りカード、名前シール、ポイントカード

(3) 本時の展開

時間	学習活動 ・児童の思いや願い ○教師の発問	☆教師の支援・願い ★評価規準
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> でこぼこざらりんたんけんたいになって、いろいろなもようを見つけよう！ </div>	
10	○学校の中の模様見つけをしよう。 ・おもしろい模様を見つけないな。 ・いろんな場所をこすってみないな。 ・どこへ行こうかな。 ○学校の中でこすり出しができそうなどころを探して、こすり出しをしてみよう。 ・わあ、廊下の床って面白い模様だな。 ・次は壁もやってみよう。 ・色を変えるときれいだな。 ・見て見て、こんな模様が出てきたよ。 ・少し強くこするとはっきり模様が出てくるよ。 ・～に見えてきたよ。 ・模様をかさねるときれいだよ。 ・次はコンテでやってみよう。 ・紙のむきをかえてかさねてみよう。	☆児童の興味がわくような提示をする。(手紙) ☆学校の中を自由に動き回るため、安全面を配慮してグループで活動する。 ☆活動するときの約束を確認する。 ☆必ず立ち寄るところを決め、児童の活動の様子を把握する。 ☆意欲的に活動している児童には、温かく見守ったり、さらに活動が進むように声かけをしたりする。 ☆うまくいかない児童には、こすり出しのポイントをもう一度思い出させ、一緒に活動する。(ポイントカード) ☆なかなか活動が進まない児童には、友だちの様子を紹介したり、先にすてき見つけをしたりして、意欲づけをする。 ★こすり出しによってできる模様の面白さに気づき、積極的にやりたいことを見つれたり、表し方を考えたりしているか。 (イ①：活動の様子、つぶやき)
50	○自分のお気に入りの模様を見つけよう。 ・わたしはこの模様が一番好きだな。 ・これが一番上手にこすれたぞ。 ・どれがいいかな。 ・全部お気に入りだよ。	☆自由に動き回ることができるよう、会議室の机、椅子を片付けておく。 ☆自己評価や相互評価をしやすいうように名前シールを用意する。 ☆みんなの活動が見えやすいように、こすり出しをした紙を会議室の両側に連結クリップで掲示していく。 ☆自分でお気に入りの模様を見つけれない児童は、同じグループの友だちと協力して見つけるよう伝える。
60	○自分のお気に入りの模様に教えてあげよう。	☆ここが、「1年3組すてきな模様美術

	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしはこの模様が気に入らだよ。 ・見て見て、面白い模様でしょ。 ・この色がすてきでしょ。 ・模様をかさねたら、こんな模様ができ たよ。 ・どこでやったのかな？ <p>75 ○友だちの見つけた模様を見て、すてきな ところをさがそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わあ、いろいろな模様があるな。 ・この模様おもしろいな。 ・～みたいですてきだな。 ・どこでやったのかな？ ・あっ、この模様、ぼくと同じだ。 ・これは、廊下だね。 ・色を変えるときれいだね。 ・そんなところもやってみたんだね。 	<p>館」であることを知らせ、いつもと は異なった雰囲気の中で、じっくり 見つけた模様を鑑賞する時間をと る。</p> <p>☆自分のすてきを見つけ、自由に発表 や質問ができる雰囲気をつくる。</p> <p>☆発表する際に作品を額に入れて掲示 し、発表したいという意欲を高めたり、 集中して作品を見たりできるようにする。</p> <p>☆すてきカードを用意し、一人一人の 児童の思いが受け取れるようにする。</p> <p>★自分や友だちの活動や見つけた模様 の、面白いところやすてきなところ を見つけることができたか。 (エ①：発表、つぶやき、カード)</p> <p>85 ○今日の振り返りをしよう。</p> <p>☆自分の工夫や頑張りを振り返ること で次時の活動の見通しや、意欲につ なげるようにする。</p>
--	---	--

(4) 本時の具体的な評価

- ・評価規準
 - ・こすり出した模様の面白さ、美しさ、不思議な感じに気づき、さらに
したいことやいろいろな表し方を思いつく。
 - ・自分や友だちの活動の様子や、こすり出した模様を見て、面白いと
ころやよいところを感じとる。

	発想や構想の能力	鑑賞の能力
十分満足できると判断される児童の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・こすり出してできる模様の面白さや材料の形や色などの特徴に気づき、できる模様を想像しながら、新しいやり方を工夫して積極的に活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの活動の様子や、こすり出した模様を見て、面白いところやよいところを見つけ、進んで発表する。

<p>おおむね満足できると判断される児童の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こすり出してできる模様の面白さに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの見つけた模様の面白さに気づき、関心をもって見ている。
<p>努力を要すると判断される児童の具体例と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こすり出す行為だけに興味を示し、出てくる模様に関心が向いていない児童には、声かけをし、活動の楽しさだけでなくできる模様の面白さにも気づかせる。 ・なかなか活動が進まない児童には、友だちの様子を紹介したり、先にすてき見つけをしたりして、意欲づけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ眺めているだけで、自分や友だちの作品に興味を示さない児童や、作品のよさを見つけれない児童には、お気に入りの模様や色を考えさせたり、教師がよいところを見つけてそれを知らせたりして関心をもたせる。

《図画工作科 評価チェック表》

題材名「こすってうっそう」 1年

評価の観点	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	備考
評価規準	身の回りにおけるこすり出しに適したもののや場所に関心をもち、形や手触りを楽しんだり、こすり出す活動を楽しもうとする。	こすり出す活動を通して、材料の形や色などの特徴に気づき、感じたことなどから思いをふくらませ、新たなアイデアを思いついたり、表し方を考えたりする。	思い付いたことを試し、体全体の感覚を働かせ、自分の思いにあった表し方を見つける。	自分や友だちの見つけた模様に関心をもち、形や表し方の面白さに気づき、楽しく見る。	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					